

SSKA 頸 損

KEISON No.94

も く じ

特集記事1

全国頸髄損傷者連絡会・日本リハビリテーション工学協会「合同シンポジウム」

福祉機器の格差を考える ―地域と生活―

- ①合同シンポジウム報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- ②新聞報道記事・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

特集記事2

わたしの趣味

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 旅行・スポーツ観戦・パソコン・etc | 宇高 竜二・・・・・・・・・・ 6 |
| 絵を描き続けて | 川畑 勲・・・・・・・・・・ 7 |
| 車いすから大空へ | 平野 功・・・・・・・・・・ 8 |
| リハビリの延長が趣味に | 桑本 義美・・・・・・・・・・ 9 |
| 点訳ボランティア | 大西 陽子・・・・・・・・・・ 11 |
| 浜名湖で釣り大会 | 水島 秀俊・・・・・・・・・・ 12 |
| 小物釣り・読書 | 横田 恒一・・・・・・・・・・ 13 |
| デジスコ（望遠撮影） | 堤 隆・・・・・・・・・・ 14 |
| ハーモニカ演奏・釣り・スクラッチ画 | 中西 仁文・・・・・・・・・・ 14 |

連 載

- 会員さん紹介 末永茂樹さんの巻・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
- 支部紹介「愛知頸髄損傷者連絡会」・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
- お役立ち「東急ハンズ」で見つけた便利グッズ・・・・・・・・ 18

旅行記2題

- | | |
|------------------|---------------------|
| マレーシア旅行騒動記 | 塚本 喜英・・・・・・・・・・ 19 |
| 俺たちの旅 大分県府忘年慰安旅行 | 宮野 秀樹・・・・・・・・・・ 23 |
| "大阪頸損"「街に出よう」 | ・・・・・・・・・・・・・・・・ 27 |
| 08春 代表者会議報告 | ・・・・・・・・・・・・・・・・ 28 |
| 松井先生退官のお知らせ | ・・・・・・・・・・・・・・・・ 29 |
| 厚生労働省と交渉 | ・・・・・・・・・・・・・・・・ 29 |
| 電動車いす情報 | ・・・・・・・・・・・・・・・・ 30 |
| 全国頸損連絡会本部・支部連絡先 | ・・・・・・・・・・・・・・・・ 31 |
| コラム・編集部よりのお知らせ | ・・・・・・・・・・・・・・・・ 32 |

全国頸髄損傷者連絡会・日本リハビリテーション工学協会

「合同シンポジウム」

福祉機器の格差を考える ―地域と生活―

報告：日本リハビリテーション工学協会 東京頸髄損傷者連絡会

麿澤 孝

福祉機器にまつわる地域の格差、サービスの格差、情報の格差などを、各地域で生活する当事者の視点から考え、その問題点を議論し、各地域における福祉機器の将来あるべき姿を提案することを目的とします。福祉機器は、機器の供給制度などが地方行政に頼るところが大きいいため、地域の格差やサービスの質、それらの情報を入手する方法や情報量などが、地域格差を生み出す要因となる場合があります。また、積雪寒冷地域や交通の不便な地域など、地域によって必要な機器や機能は異なる場合も多々あります。どのような地域にいても当事者が満足できる生活をするために、必要な機器を手に入れ、活用するにはどうすればよいのかを討論します。

<開催概要>

- ・ 開催日時：2008年3月1日(土)
13:00-17:00 (開場 12:30)
- ・ 主催：全国頸髄損傷者連絡会，日本リハビリテーション工学協会
- ・ 協賛：特定非営利活動法人塩井障害者自立支援基金
- ・ 会場：戸山サンライズ

開会挨拶

松尾 清美 (日本リハビリテーション工学協会 理事長)

三戸呂 克美 (全国頸髄損傷者連絡会 会長)



挨拶する三戸呂会長

13:10-14:25

第1部 地方で生活するユーザーの実情

司会：八幡 孝雄(全国頸髄損傷者連絡会 事務局長)

相山 敏子 (そうやま としこ)

東京頸髄損傷者連絡会

【私の生活と福祉機器の情報収集について】

2004年に開催された「東京頸髄損傷者連絡会・日本リハビリテーション工学協会合同シンポジウム『ユーザーパーティシペーション』」に参加し、「地方では情報を発信する場所や機会が少ない」と発言した。それから4年経った。私はあいかわらず一日の大半をベッド上で過ごしている。約10年前からはじめたインターネットはますます私の生活には欠か

せない存在になった。多くの方々から手ほどきを受け、ニュースや自分の趣味、福祉機器などの情報はなんとか調べることができるようになった。しかし、溢れかえる情報の中からいざ新たな福祉機器を購入したいと思うと、やはりネット上の画像や文字情報だけでは不安が残る。本来なら実際に機器を手に取り、専門家と相談しながら決めたい。もちろんユーザーの生の声もたくさん聞きたいが、地方でこれらのことを実現することは難しい。インターネットの可能性を信じて、まずは私から、そしてこのたくさん思いが詰まった家から情報を発信していきたい。



講演する相山さん

石川 宗二（いしかわ しゅうじ）

療護施設自治会ネットワーク

【施設の生活で感じること】

現在私が生活をしている施設には、100名（男女各50名）の入所者がいる。各部屋（1人部屋と2人部屋がある）には、電動ベッド、TV（パソコンの利用可）等の設備が整い、台所、トイレ、浴室は共同だが比較的プライバシーにも配慮されたつくりになっているのが特徴だ。施設周辺は電動車いすで移動できる環境が整備されているため、快適な生活を送ることができる。一方、開設30年を迎えたこの施設では、現状に満足している入所

者や職員も少ないわけではない。福祉機器をうまく使えば、生活の質がさらに向上し、毎日の介助も楽になる可能性があるにも関わらず、私が国際福祉機器展などでようやく手に入れた情報を他の入所者や職員に話してもあまり関心が高くない。予算面という現実的な問題は確かに大きな壁かも知れないが、入所者や職員が自分たちの生活を見直し、新たな福祉機器を「一度試してみたい」という声を企業や大学等に発信することから始める必要があるのではないかと痛感している。

和田 英人（わだ ひでと）

自立生活センター青森

【積雪寒冷地における電動車いす使用者の生活】

私は現在、青森市内の民間アパートを借り、電動車いすを使って1人暮らしをしている。身体に重度の障害があっても、自分の将来や夢の実現を日々の暮らしの中で実感しながら生きていきたい。自分で責任を持ち自分が決めた暮らしをしたいと決意し施設を出た。さて、積雪寒冷地である青森で電動車いす使用者はどのように生活をしているのか。「雪の日は車いすのタイヤにチェーンを巻くのですか？」「スタッドレスタイヤの電動車いすですか？」「町中の歩道がロードヒーティングになっているのですか？」などと質問する専門家も少なくはない。福祉機器の国際基準をつくることも必要だと思うが、各地域の気候風土にあった福祉機器があってもよいのではないかと考えている。今回、雪国に住む私の生活を報告することで新たな福祉機器開発のヒントになれば幸いである。たとえ重い障害があってもさり気なく暮らせる街。21世紀の青森をそんな街にしていきたい。

14:40-15:30

第2部 アクティブユーザーからの提言

司会：河合 俊宏(埼玉県総合リハビリテーションセンター)

麿澤 孝(ふざわたかし)

東京頸髄損傷者連絡会・日本リハビリテーション工学協会

【福祉機器に関するセラピストの情報量と熱意がユーザーの生活に及ぼす影響—格差のない情報提供とサポート体制の確立に向けて—】

私は受傷当時、病院内の作業療法士から多大な影響を受けた。障害の受容から衛生管理の方法、障害者団体の情報提供まで、非常に親身に対応していただき今でも感謝している。その作業療法士のおかげで福祉機器への関心が高まり、企業との共同開発など積極的にこの業界に関わることができたといっても過言ではない。しかし、私の周りにいる地方から都市部に出てきたユーザーの多くは、地方のセラピスト(一部)に関して、福祉機器の情報量もなければ熱意もないとあきれていた。また、退院後はセラピストとのつながりも希薄になり、気軽に相談できる場所がないと悲観していた。私どもユーザーは、まず病院からの情報を頼りにせざるを得ない。在宅生活で必要不可欠な福祉機器に関して、より身体機能や住環境との適合がその後のADLやQOLに大きな影響を及ぼすからだ。地方に限らず都市部のセラピストももっと貪欲に情報収集を行う機会を設け、意識を高めて欲しい。また、退院後もユーザーと専門職(セラピスト、エンジニア等)と一緒に相談できる地域に根ざしたネットワークシステムが必要だと考える。本シンポジウムでは格差のない情報提供とサポート体制の確立を提案し、その可能性について議論したい。

宮野 秀樹(みやの ひでき)

兵庫頸髄損傷者連絡会

【重度障害者の地域生活における情報・機器の重要性—セルフヘルプ活動とその課題—】

重度障害者が地域生活をおこなう上で、日々の生活に不安を感じることなく安心して暮らせるようにするためには「生活に必要な制度と介助」「情報の取得」「生活環境にあった福祉機器」は欠かすことができない。しかし、それらには地域格差が大きく存在する。兵庫県の中南部で1人暮らしをおこなう自身も格差にさらされる1人であるが、自身が築いてきたネットワークを活用することによって快適な生活を送っている。また、近年人工呼吸器使用者と活動をともにすることが増えてきたが、彼らの生活にも様々な課題がある。事例をあげながら、情報提供&技術提供をおこなう関連機関との連携やセルフヘルプ活動をおこなう上での課題を考える。



アクティブユーザー宮野さん

第3部 総合討論

司会：麿澤 孝(前掲)・井上 剛伸(国立身体障害者リハビリテーションセンター)

【パネリスト】

松尾	清美	三戸呂	克美
相山	敏子	石川	宗二
和田	英人	宮野	秀樹



総合討論の様子

開会挨拶

15:45-16:30

全国頸髄損傷者連絡会・日本リハビリテーション工学協会「合同シンポジウム」は、2008年3月1日に、全国障害者総合福祉センター戸山サンライズで行われました。今回のテーマは、「福祉機器の格差を考えるー地域と生活ー」であり、福祉機器にまつわる地域の格差、サービスの格差、情報の格差などを、各地域で生活する当事者の視点から考え、その問題点を議論しました。

第1部ではしゃしん

参加者総数は、88名（頸髄損傷者連絡会23名、リハ工協会員11名）うち車いす利用者は25名でした。所属機関は、大学・研究所が16%、企業が14%、福祉・介護関係が12%などでした。また、参加者の居住地は、17都道府県（北海道・秋田県・宮城県・福島県・茨城県・群馬県・埼玉県・東京都・神奈川県・静岡県・岐阜県・愛知県・三重県・京都府・大阪府・兵庫県・福岡県）におよび、幅広い地域からの参加がありました。



多くの参加者がありました

参加者から回収したアンケートの集計結果からは、第一部では「その地域ならではの問題や課題を知ることができてよかった」といった地域の理解に関する感想が多く見られました。第二部では、「他の方たちに自信や希望を持たせてくれる」「セルフヘルプの重要性」などユーザーのモチベーションを向上させる感想、第三部では、今後の取り組みへの期待が寄せられました。

参加者数 88名
車いす利用者 25名
リハ工協会員 11名
頸髄損傷者連絡会会員 23名
大学・研究所 14名
企業 9名
福祉・介護関連 8名
その他 1名

これからも全国頸髄損傷者連絡会と日本リハビリテーション工学協会連携し、活動していきたいと思ひます。

“ 合同シンポジウム ” 報道記事

点字毎日活字版 2008/03/20 日付

「福祉機器の格差を考える」シンポ

QOL 向上に地域差 頸髄損傷者らが訴え

「福祉機器の格差を考える」をテーマに重度障害者の地域生活を考えるシンポジウムが1日、東京都新宿区の戸山サンライズで開かれた。日本リハビリテーション工学協会が、全国頸髄損傷者連絡会と合同で主催したもので、電動車いすの利用者など約120人が集まった。参加者の発言からは、QOL（生活の質）の向上に福祉機器の活用が重要な位置を占める一方で、そのための情報入手や、その後求められる専門の支援機関や業者が地域によって少ない実態が課題として浮かび上がった。

今回のシンポジウムは、福祉機器についての地域格差、サービスの格差、情報の格差について利用者の声から考えるのが目的。どの地域に暮らしている障害者も必要な機器を手に入れ、活用するには何が必要かを探った。

福島県に暮らす頸損当事者の女性は、パソコンで情報収集できる人の中には、自分に合った福祉機器を選んだり、作り出すという主体的な意識を持てる人が出てきたが、自分の周囲には少ないと発言。最も必要な人に情報が届かない「閉ざされた環境にある」と、地方での情報格差の問題を指摘した。

香川県の入所施設に暮らす車いす使用の男性は、新しい福祉機器のモニターになりたい気持ちを普段から持っていた、大都市中心のためチャンスが少ないと嘆いた。

青森県で、電動車いすを使う男性は、積雪時の移動の苦勞を具体的に紹介。介助者のサポートや

街づくりも併せて考える必要性を訴えた。そして、福祉機器開発に当たっての地域特性への配慮も要望した。

兵庫県の中央部に暮らす電動車いすユーザーの男性は、同一県内でのサービス格差について触れ、重度障害者への医療機関や在宅生活の支援体制、福祉機器の技術提供機関が都市部に偏っている実態を指摘した。一方、そうした環境にあっても、自らの生活を充実させているのは、「ネットワークによる恩恵」だと語り、障害当事者からの情報を最大限に活用していることを明かした。男性は「自分がどんな生活をしたいのか、どんな機械を使いたいのかアピールしている。難しい要望であっても、自らのQOLの向上を示すことで、その貪欲さも理解してもらえる」と話していた。

記事全文

旅行・スポーツ観戦・パソコン・映画鑑賞・etc.

愛媛頸損連絡会 宇高 竜二

はじめまして！こんにちは愛媛県に住む31歳の♂です。わたしは、6年前に労災の転落事故でc4～c5の完全四肢麻痺の頸髄損傷になりました。私の趣味はスポーツ観戦（プロ野球・格闘技）・パソコン（インターネット）・映画鑑賞・お酒・音楽鑑賞・釣り（みてるだけですが・・・）・旅行などです。今回は趣味の中でも旅行に行ったときの旅行記を簡単に紹介させていただきます。

昨年夏に（娘の夏休みに合わせて）家族3人でハワイへ4泊6日で遊びと観光を兼ねて行ってきました。事故後初フライトしかも海外ということで長時間でしたが自分が心配していたほど問題もなかったです。わたしの排尿は膀胱ろうで排便は座薬を使いき便で排泄しています。妻が元看護師だったので心強かったです。感謝です。



モアナルアガーデンにて



ハワイのバス事情

ハワイ滞在中の毎日の車椅子への乗車介助に来てくれたヘルパーさんが偶然日本人の方で優しく丁寧に介助していただきました。家族の絶大な協力もあり特に問題もなく楽しめました。日本と違いハワイのバリアの少なさに感動しました。さすがバリアフリー天国ハワイと言われるだけの最高の場所でしたよ。

公共交通機関のバス The Bus は全てリフト付きの車椅子対応でした。歩道から車道、車道から歩道も介助なしで全く問題ナシ！オプションでオアフ島1周観光も車いすハワイ・ドットコムのおーナー鈴木さんの運転手兼プロのガイドの優しくおもしろい方と1日観光も楽しんできました。日本のように湿気もなく常夏で頸損の方には過ごしやすいところでしたよ。わたしはまたハワイに行きたいと思っています。皆さんも是非行ってみたいところです。

Kennji2のトラベル介護コンシェルジュ
<http://barrier-free-hawaii.180r.com/>
車椅子ハワイ・ドットコム
<http://home.hawaii.rr.com/kurumaisu>

「絵を描き続けて」

大阪頸損連絡会 川畑 勲



作品の前で

障害者になってから絵を描き続けてきました。絵を描くきっかけは、受傷してまだ中学生だったのですが、当時担当していたリハビリの先生が、結婚することになり、すぐにお世話になっているので何かプレゼントしたいと思い絵を描いてプレゼントし、すごく喜ばれたのがきっかけです。

養護学校の高等部を卒業後就職先がなく本格的に絵画教室に絵を習いに行きました。

ある程度描けるようになって賞なども重ねていくともっと難しいことを要求され、ストレスから躁鬱病になってしまいました。そのときはこの先もう2度と絵を描けないのではと思っていましたが、症状が良くなって自分にあった新しい技法を編み出したのでまた絵を描き始め、今ではまた色んな展覧会に出品し賞をもらえるようになりました。

将来では絵を認められて仕事にしていきたいと思っています。

「車いすから大空へ」

京都頸損連絡会 平野 功

「上昇気流をつかまえ高度を上げていく。雲底にたどり着くと、次の目的地に向かって滑空していく。さえぎるものがない、至福の時間が流れる。」

ハンググライダーやパラグライダーで大空を飛んでいた僕は、ケガをして車いす生活になり、9年間その大空から離れてました。しかし、車いすでもグライダーで空を飛んでいる人の話を聞き、行けば何とかなるだろうと岐阜県の大野グライダークラブの体験搭乗に申し込み、グライダーに乗ってきました。やはり、空は素晴らしくて、その日のうちに入会した僕は、いつかは一人で飛べる日を夢見て操縦練習を続けています。条件がよければ1000m以上も上昇し、琵琶湖までフライトすることも可能です。手に麻痺があっても、体験



搭乗 (3000円) は誰でも乗れますし、できる範囲で操縦練習も可能です。

あなたも大空のお友達になりませんか？



リハビリの延長が趣味に

大阪頸損連絡会 桑本 義美

全国頸髄損傷者連絡会のみなさん、こんにちは。大阪府守口市に在住しています 67 歳の、桑本義美と申します。

今年は、立春を過ぎてから寒さが厳しくなってきたようで、大阪では、十一年ぶりの雪になりました。皆さんの方はいかがですか。

1993 年（平成 5 年）12 月 18 日、当時私は、大工職をされていて、建設会社に勤めており当日は、年に一度の、会社での忘年会帰りに自転車で転倒し、救急車で病院に搬送されました。平成 6 年 3 月から 12 月まで枚方市の星ヶ丘厚生年金病院で、リハビリ入院をしていました。リハビリの期間中は、魔坂の人生の始まりとは、思っても居ませんでした。病院内では友達もでき、自分が障害者になった事すら忘れるほどの期間でした。紆余曲折の人生を送ってきた私です。結婚生活も 15 年で以後は、独身人生です。家に帰ってから天井を見て毎日を送る日々、此处で本当に、魔坂の人生の始まりやな〜と改めて思った次第です。楽しみと言えば週 2 回ヘルパーさんが、「こんにちは」と元気な声で来て頂けるのが唯一の楽しみだったと、今思い出せば、15 年前が懐かしくも思える時があります。そんな折、ヘルパーさんと会話の中で「桑本さん肩で息してるよ」と言われ、そういえば自分でも息苦しさを感じていましたが、「長い入院生活のせいやろうな〜」と勝手に思っていました。



ハーモニカ

ヘルパーさんから、「こんな本があるけど読んで見ない」。本を読むことなどほとんど無かった私には始めはどうも馴染めず、2〜3 ページ読むではそのままにしていました。その内、時間もタツプリあるため、次から次に本を読むことが楽しくなりました。読んでいる本の中に、ハーモニカは腹式呼吸のため、私のように息苦しい人には大変効果があることが分り、早速友達に頼んで、C 調ハーモニカを買ってきてもらいました。近くの書店で「ハーモニカが吹ける」本を買って、その日からハーモニカを口にするように成りましたが、本通りには中々思うように吹けず、熱しやすく冷めやすい性格の私のことですので、ハーモニカを口にする事が少なくなりました。しかし他にすることも無く、又本

を読み「そ〜かりハビリやな〜」。そう思うと、又毎日ハーモニカを口にするようになりました。ド、レ、ミ、ファ、ソ、ラ、シ、ド、の音符がだんだん息も長く続けられ、最初に「一応ハーモニカが吹けたな〜」と思えたのは、童謡の春の小川でした。それからハーモニカが面白くなり、童謡「おぼろ月夜」「赤とんぼ」も楽譜を見ながらですが、吹けるまでになりました。

2000 年（平成 12 年）、当時守口市の 2 ケ所の施設で機能回復訓練の事業でリハビリに参加し、半年の訓練の最終のお別れ会で、皆さんの前で始めて童謡を 2 曲吹きました。人様の前でハーモニカを吹き何か自信がついたのを、覚えています。それからは、守口市の他の福祉会の総会の席で、又別の会の花見の席で、そのうち演歌の本も手に入れ、演歌にも挑戦するようになりました。勿論、私が入会しています、大阪頸損連絡会の新年会でも、何度か時間を頂き皆さんと一緒に楽しんでいます。

今では、A 調、C 調、Am 調、A # 調、と 4 本のハーモニカを口にしています。2 年ぐらい前ででしょうか、「アッ、そういえば前の息苦しさが無いな〜、声にも張りがあるな〜」、自分勝手ですが、そう思えるようになりました。

2 年ぐらい前ででしょうか、友達が、「アルトサックス教室に通っているが、どうしても続かない、あんたに譲るわ〜」。そんな訳で、週 1 回サックス教室に通う事にしましたが、最初はまったく音が出ず、それに重さが 3 Kg 近くあるサックスを首に掛けて吹く事は、両手の握力が 10 程しかないため、私には「これは無理かな

〜」。少し握力が増しに成るまで一時休みにし、家でマウスピースだけ口にくわえ音を出しています。ハーモニカに比べサックスの肺活量は数十倍も必要で、「あ〜、これもいいリハビリになるな〜」、そう思って今は続けています。何時になるか分かりませんが、人様の前でサックスを首に掛け「見上げてごらん夜の星を」でも吹けたら、今はそんな気持ちです。

パソコン

今一番凝ってる『趣味』は、と聞かれるとパソコンです。それも、動画を撮り編集して DVD に仕上げる事です。一本の DVD を仕上げるのに、編集のやり方によっては、大変な時間が掛かりますが、それが又人様には分らない程の面白さが、私の中にはあるように思います。そんな訳で、一日が、アッとゆう間の時間に思います。何かに夢中になれるものがあるとゆう事は、特に私のように一人住まいの 67 歳の男にしたら、毎日が青春だと感じています。

最後まで、お付き合い頂き本当に有り難う御座いました。

全国頸髄損傷者連絡会の皆さんどうぞご自愛下さい。

此処までこられたのも、十年以上絶えず背中を押して頂いたヘルパーさんのおかげと、改めて感謝申し上げます。

「点訳ボランティア」 但し、私はパソコン点訳のみ

大阪頸損連絡会 大西 陽子

趣味の紹介

川西市社会福祉協議会主催の「初級点訳講座 10 回コース」を受講し、川西市の点訳ボランティアグループ「りんどう」に所属。

視覚障害者のための、市刊行物・諸情報、行事案内等の点訳、県点訳ボラ連絡会を通じて全国からの依頼物（例えば小説、雑誌、教科書、専門書など）の点訳。

個人の依頼物（例えば新聞）。

趣味を行う際の工夫

パソコンキーを叩く時、自助具（ユニバーサルカフに、ゴム付き鉛筆をセット）使用。

パソコン専用テーブルも身体に合わせオーダーメイド（ボランティアさん製作）使用。

調べ物するのに「広辞苑」や「百科事典」必須だが、インターネットが大いに役立っている。



浜名湖で釣り大会

静岡頸損連絡会 水島 秀俊

● ハゼドン杯（釣り大会）●

浜名湖は、静岡県西部に位置する汽水湖です。温暖で風光明媚な所です。釣りも盛んで、いろいろな魚が釣れますよ。こんな近くに良い釣り場があるのだから、浜松自立支援センターの会員の親睦会も兼ねて（誰でも参加OK）、皆で楽しく新鮮な魚をゲットしてしまおうということで、年2回（頸損には絶好な5月と10月）、ハゼドン杯という釣り大会を開催しています。今年の5月の開催で4回目になります。 去年の

★ My HP <浜名湖探訪>

<http://www2.wbs.ne.jp/~hazedon/>

10月に開催された大会では、30cm近いクロダイを釣った男性ヘルパーが大物賞をGET！。全体的にはキスやハゼ、メゴチ、ベラ、カワハギといった小物の五目釣りが主体ですが、初心者でも何かしら釣れるのが浜名湖の良いところ。釣りに飽きたら海辺を散歩したり、潮干狩りをしたり、皆で楽しく遊んだり・・・思い思いのスタイルで楽しめる、何でもありのラフな釣り大会ですよ！ 詳細や釣りの画像は、以下のHPをご覧ください。



左から3番目・白い帽子



友人の鳥羽さん姉弟



第3回ハゼドン杯



小物釣り・読書

東京京頸損連絡会 横田 恒一

小物釣り

子供の頃から釣りが趣味でした。頸髄損傷者になり諦めていましたが、5年ほど前に友人からヘルパーさんに手伝ってもらえば釣りができることを教えてもらい、以来やみつきになっています。

頸損の釣りは、いいところ取りです。釣りの準備、エサつけ、魚の取り外しもヘルパーさんにやってもらいます。魚を引っかけるところだけやります。

でも、ヘルパーさんが自分の釣りに夢中になってしまうとほっておかれるというさみしい思いをする時があります。釣り方は、1.5m 前後の竿を利き手にベルトやボーリング用の手袋で固定しておこなっています。

車いす特に電動車いすで水際に近づくことはたいへん危険です。釣りをされる時は十分に注意をして楽しんでください。



東京頸損連絡会の友人たちと共に（一番手前）

読書

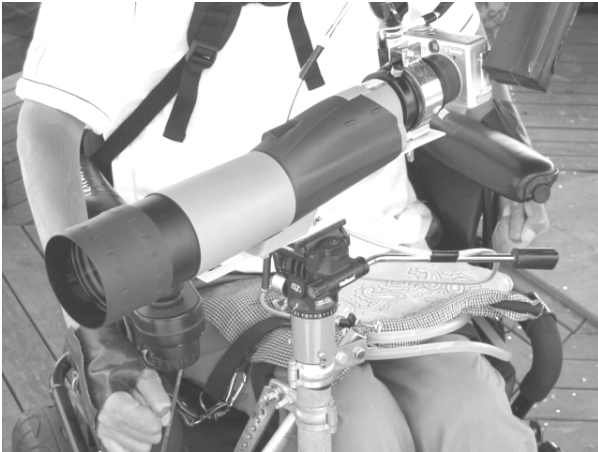
たっぷりのお茶とおまんじゅうをつまみながら
小説を読むのが好きです。

好きな作家は、藤沢周平と村上春樹です。

デジスコ 「被写体はカワセミ etc.」

東京頸損連絡会 堤 隆

足立区在住 C5レベルでデジスコ（デジタルカメラ＋スコープ・望遠撮影のこと）を趣味にして日々を楽しく過ごしています。



作品紹介



カワセミ



ウグイス

ハーモニカ演奏、釣り、スクラッチ画

愛媛頸損連絡会 中西 仁文

私、愛媛頸損会の中西と申します。
早速ですが私の余暇の過ごし方を紹介させていただきます。

ハーモニカ

約1年ほど前から始めました。
昔から音楽は好きだったので、何か楽器は出来ないモノかと思い、ハーモニカなら指を使わずメロディーが奏でられる唯一の楽器だと思い始めました。
呼吸に難があるのですが、これもまた楽しみながら良い呼吸器訓練になってます。
年に数回 私の利用している生活介護施設で演奏会もしています。

釣り

受傷するまで私の趣味と言えるモノは「釣り」だけでした。

年中チヌ（黒鯛）を追い掛け釣行してましたが、今は難しいです。
今は足場の良い岸壁でサーフやサビキ釣りで楽しんでいます。
何よりも楽しみが、釣った魚をその場で調理して仲間とイッパイやる事ですね。



スクラッチ画

石膏ボードに黒い塗料を塗ったスクラッチボードにケガキ針で傷つけると塗料が剥がれて白い下地が出てきます。その白い線で絵を描いていきます。ある程度 握力が必要で、手も疲れるので少しづつコツコツとやっています。

会員さん紹介

頸損連絡会と私の出会い

大阪頸損連絡会 末永 茂樹

私が頸損連絡会の存在を耳にしたのは約16年程前だった気がする。その頃には、頸損になって4年ほど経過していました。大分県別府市にある国立別府重度障害者センターに入所していた頃で、福祉に関しては非常に興味を抱き、様々な活動を行ったり、書籍を読んだり、自立に向けての準備期間（ADL リハビリテーション→職業リハビリテーション）でもあった頃です。

私は、怪我するまでは宮崎県に住んでいて、病院への入退院、リハビリテーションセンターへの入所・終了でかなり転々としていました。まずは、宮崎県（延岡市）→福岡県（飯塚市）→大分県（別府市）→埼玉県（所沢市）→埼玉県（新座市）→東京都（練馬区）→大分県（別府市）→大分県（大分市）現在に至っています。交通事故により頸損となり、以後20年間車いす生活を送っています。怪我して2年目にCILを知り、3年目にアメリカADA法を知り、自分達でも何かを起こし、自立生活に向けての活動をしていこうと仲間達と動いていた時のことを思い出します。怪我をして2年目に施設の友人と交流する倶楽部を設立し、3年間ほど活動をしました。お互いに対等で会を楽しみながら、また出会いを求めて友をつくり施設生活を満喫していました。決して一人では成し得ないことも、組織を上手く活用することによって成し遂げられる。地域が、町が、福祉が変わる活動をやっていこう。と、ビジョンを掲げやっていた

たが、私自身がどうしても就職したいという願望が強く退会するものの、何故か会もすぐに解散となってしまいました。



王子動物園(神戸)にて 前列左

こういった経路を辿ってきた私ですが、時々、ふと思うことがあります。それは、関東に行かずに別府に永住していたら果たしてどうなっていたのだろうか？と。当時の日本にはCILが少なく、今の様に盛んに活動していませんでした。CILを設立するか？就職するか？非常に悩んだ時期でもありました。自立の方法もいろいろありますが、私自身が選択したのが埼玉県所沢市にある国立身体障害者リハビリテーションセンターならびに国立職業リハビリテーションセンターへ入所することでした。自分自身が社会や企業で果たしてどこまで通用するものか試してみたかった。東京で就職もできて順調でしたが、やはり九州が恋しくて再び大分県へ戻ってきました。大分ではすぐ就職も決め、結婚もしました。お嫁さんは、埼玉のセンターで知り合った関西人

で、当時は埼玉大学の学生さん(健常者)。まったく面白い出会いであり、「ただで帰らない」ところが自分らしい。関東に行っていなかったらこの出会いはなく結婚もしていなかったら…それは冗談(笑)。縁って不思議なものです。大分には永住するつもりで新居を建築しました。4年後に双子(二卵性で男の子)を授かり、もうすぐ6歳の誕生日を迎えます。その後、大分市へ住所を変え、今に至っている。家族4人がそれぞれの環境に合った申し分のない住宅と土地、かなり引越しを重ねてきたが本当にこの場所で落ち着き、永住したいものです。今の住居周辺は、学園都市でありながら福祉のまちでもある。非情に住みやすい地域です。

頸損連絡会に入会して、早3年目を迎えます。何も分からずに初参加した神戸大会で全国の頸損達のパワーを感じ、自分も何かをと思い、始めたものが幾つかあります。まずは、仲間とNPO法人を立ち上げて、ボランティア活動を開始。ボランティア活動しながら今失いつつある人と人との絆を結ぶのが狙い。また、流動する介護の問題を少しでも穴埋め出来れば幸いと思い、ネットワークを構築しています。

次に脊損連合会で自立に向けた取り組みとビジョンを掲げての我々がやらねばならぬものを確立させようと日夜、情報の収集と活動に専念しています。自立支援法では今は知的と精神の勢いがあるように伺える。身体の立場を主張しながら「誰もが住みやすいまちづくり」に寄与できるように更なるネットワークを確立したいものです。

全国大会(大阪)には、今回は必ず参加する予定でありますので皆さん是非、名刺交換して下さい。先着100名様限り(笑)、

この機会に一人でも多くの方と交流が出来ることを希望し、私の拙い自己紹介を終了したいと思います。

最後に大分県のPRをします。温泉は日本一(別府・湯布院)で重度障害者でも入浴できるホテル・旅館がある。一村一品で有名なように誇れるものが沢山あります。椎茸(日本一)、関アジと関サバ、河豚、スッポン、やせうま、かぼす、鳥天、カレイ、他にもかなりありますがこの辺で止めておきます。焼酎・日本酒・ワイン・地ビール・他で飲み物も豊富。大分は、九州のへそとも言われる位に人の出入りや物流が激しい県でもあります。スポーツが盛んでプロスポーツのチームが4つある。多くのプロ選手も育っている。障害者スポーツの発祥の地と言っても過言ではない。社会福祉法人太陽の家の存在も世界的に知られている。私はこの地でもっと何か始めたいと今模作中です。皆さん、色々な情報を提供して下さい。七転八起「だるま」の精神で粘り強くありたいと思います。全国の皆さんもいろんなことに是非、チャレンジしてみてください。障害を忘れて夢中になれることも沢山あります。

「一人は皆のために皆は一人のために！」

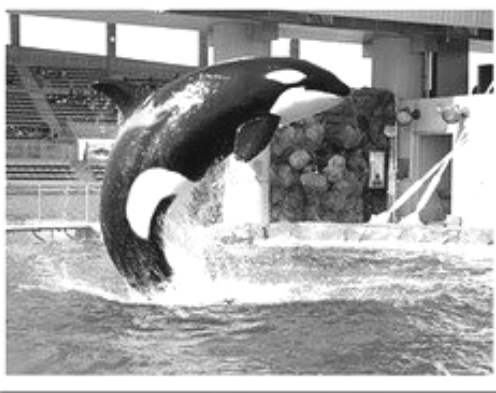


兵庫支部のメンバーと 前列左

支部紹介

愛知頸髄損傷者連絡会

愛知頸損連は毎月第3日曜日の定例会で行事や勉強会を行っています。年間を通して春と秋のレクリエーション、夏にナイトツアー、そして、秋にはハンディマラソンやワインフェスタに参加。



ジャンプするクーちゃん

から名古屋港水族館に出かける企画を数年前からして好評を得ています。夕やみに映えるイルカのショーや鯨のクーちゃんはサイコーです。

今年の秋のレクリエーションは頸損連・岐阜との交流会を行いました。岐阜の仲間に秋の高山市街を案内していただき、古い町並みや名物の食をほおぼりながらの散策は、小京都と言われる高山ならではの味わいでした。岐阜の皆様ありがとうございました。

10月には恒例の名古屋シティ・ハンディマラソンへ参加し、秋空の下、栄のど真ん中を走り海外招待選手との交流も行いました。

11月にはワインフェスタに参加して、障害を持った仲間たちが丹精込めて作ったワインを飲みながら屋台テントでの料理に舌鼓を打ち、秋の一日を満喫しました。クリスマス会&忘年会そして年をあけての新年会では久しぶりに合う仲間も多く話が弾んでいました。



パソコン講座

勉強会では障害者自立支援法や権利条約の講演会やセミナーに参加しました。また、頸損の情報交換の

ツールとして大きな役割を果たしているパソコンについても講座を開催して、パソコンに精通した仲間が熱血指導？を行い一人でも多くの会員がお互いに持っている情報を交換することで、より便利な生活を見つけて頂きたいと願っています。一年を通して一人でも多く頸損者が楽しく、元気になれるよう活動を続けています。

みんなで記念写真



会員数：41名

役員：会長 近藤実男

副会長 近藤 光利

副会長 松崎 俊行

会計 三好 宏和

会計監査 鈴木 健一

事務局長 鬼頭 義徳



古い町並み

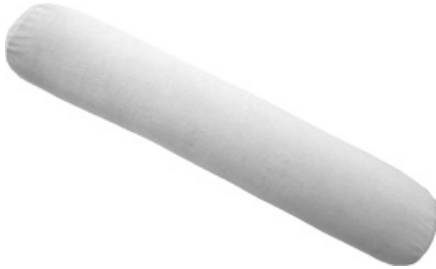
お役立ち

東京頸損連絡会 鴨治 慎吾

今回のお役立ち？は東急ハンズさん売っていた、役に立ちそうな物を集めてみました。

詳しくは、各店舗に問い合わせてください。

① スペース暖シート抱き枕



(渋谷店)

NASAが開発した技術を用いた抱き枕。赤外線反射効果により、電源なしでどこでもポカポカに暖まることができます。寒がりの方などにどうですか？

体交用まくらにも使えそうですね！

(サイズ:縦約120cm 径23cm)

重量:1.5kg

税込9800円

② ソラねこ



(ららぽーと横浜店)

太陽光エネルギーで蓄電できるソーラー式の携帯充電器。乾電池の交換の必要もないので、とても経済的で環境にもやさしい商品です。

LEDライト付きで緊急時の照明としても利用できます。 ソラねこ 税込3990円

③ 耳元スピーカークッション



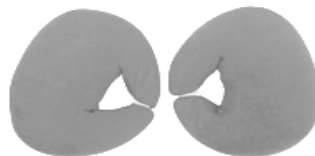
(三宮店)

クッションに小型のスピーカーが内蔵。Φ3.5mm ミニプラグをイヤホン端子に接続するだけで使用可能です。まわりに迷惑をかけずに寝ながらテレビやラジオの音声を耳元で聞くことができます。

税込1780円

(サイズ:約幅33cm×奥行24cm×高5.7cm、コード3m)

④ FUWA2 アンクルピロー



(三宮店)

足首に固定出来るタイプのアンクルピローなので寝ている時でも使えます。触感のよいパウダービーズを使用しており、リラックスタイムに最適です。じょくそう予防に・・・ 税込1500円

(サイズ:20cm×17cm×10cm、2個入)

マレーシア旅行騒動記

東京頸損連絡会 塚本 喜英

2007年の初夏、私たち家族は6日間の日程でマレーシアのペナン島に旅をした。

マレーシアに「ミニチュア・カー」の玩具工場を持つ30年来の友人が、仕事を兼ね現地に行くので、「東洋の真珠」と呼ばれるペナン島をガイド付きで案内するがよかったら一緒に行きませんか、というお誘いを受け、あつかましく便乗させていただいたのだ。勿論、私が加わることで、普通の旅行のスケジュールとは大きく異なることや、移動の手段の確保、行く先々のバリア・フリー化の確認など、抱える問題の面倒さを十分承知のうえでの誘いであった。なんとも度量の大きいというか奇恃な方で、今でも足を向けては寝られない存在である。

私の次男坊＝介助犬ジッピーは、旅行の間、私たちの恩師である訓練士の矢澤さんのお宅に預かっていただいた。彼を北海道旅行に連れて行った経験はあるが、海外旅行は検疫に日数をとられ、飛行時間が長いとなれば、彼に楽しかろうはずがない。旅行の間、ジッピーは獣医さんの「ドッグ・ドッグ」を済ませて待っていてくれる手はずになっていた。

いよいよマレーシア航空に搭乗、アテンダントは東南アジア独特の更紗模様の制服を着ている。機内食はどのコースを選んでもサイドディッシュに「サテー」と呼ばれる焼き鳥がついてくる。

マレーシアはマレー系、中国系、インド系、その他でなる他民族国家で、国教はイスラム教、6割の国民が信者である

そうだ。言語はマレー語であるが、小学時から英語教育を受けほとんどの人が英国英語を話すし、最近は北京語も必修科目に入っているそうで海外から観光客がきても日本のお寒い実情とは異なる。

この国では左手と豚は「不浄なもの」とされている。ケンタッキーとMACの看板はあちこちで見たが、豚肉を提供する店はどこにも見当たらなかった。

旅行者の悩みのひとつは、この国のトイレ事情だ。トイレの床が一面水でぬれている場面に出くわす。ローカルな処ではトイレにホースがあるだけでトイレレットペーパーが備えられていない。トイレの後には左手で洗うのだそうだ。それで左手が不浄とされる意味が分かった。みだりに他人に左手で触れたり、子供の頭を撫ぜたりしてはいけないのですよ。



時差1時間、約7時間のフライトでクアラルンプール空港に到着。空港は黒川紀章さんの設計になるもので、成田空港

の 10 倍ほどの敷地を持ち、天井が高くガラス張りのドームなので自然光がさして明るい。シースルーのエレベーターや、カウンターを始めモールや各コーナーが最先端のデザインを呈しており、動き回ると迷子になってしまいそう。チェックインと搭乗はビルが異なるので、空港内はエアロトレインで移動する。お国柄「祈りの部屋」も用意されていた。

滞在数日目になると少し環境に慣れ、朝昼夕に「イスラム教の祈り」を捧げる独特のメロディが耳に入ってくる。泊まったホテルの部屋の天井の隅には、「メッカ」の方角を示すマークが施されていて、それに従い教徒は迷わずその方角に向って祈りを捧げることができる。



クアラに一台しかないというリフト付きマイクロバスが、空港に手配されており、ペナンまで私たち六人の一行は車に乗り込んだ。外観は NISSAN 製、内装はマレーシア仕様（紫のドレープのカーテンが一昔前のカラオケルームのよう）、リフトは外付けでとんでもない高さまで上がるというかなりの代物であった。そして2日目のペナン島への移動の最中に私は事故を起こしてしまった。常時使用している電クルの感覚で、シートベルトもつけずに、少し慣れてきたリフト

台から地面に降りた際車椅子からすべり落ちたのだ。膝を打ち膝頭が多少出血した。それからは皆がリフトへの乗り降りにはひときわ注意を払うようになってくれた。その晩は疲れでどうということなく寝入ってしまった。翌日あたりから体交するとき足に違和感を覚えたが打ち身ぐらいに考えていた。

車でクアラを抜け高速道路に乗る。熱帯植物の生い茂る森を切り開いて作られているので、南国情緒を十分味わえる。その所々に新興住宅地が開発され、中規模の集落となっている。もし何年か後に再びここを訪れる機会があるなら、きっと熱帯植物群は無くなっていて核家族が暮らすマンション群が立ち並んでいるのを見ることだろう。

ガイドの説明では、郊外の一戸建てが600万位で購入できるそうだが住宅基盤や道路が整備されておらず、当時毎夕スクールが2時間ほど降る土地柄、赤土が流れ出し川や湾を汚染していて快適な住み心地という訳にはいきそうもない。

マレーシアのイスラム社会の女性は、ヒジャーブと呼ばれる髪を隠す肩まである被り物をつけており、けげげしい色でない限り色も自由、おとなしめの柄物を身につける女性もいた。飛行場で働く彼女らはきびきびと仕事をこなす清潔そうで好感が持てた。

もっと中近東になると、目の部分だけが開いた全身黒ずくめの服装になると聞いていたが、実際にホテルで出会った家族連れの若い母親は、たいへんにエキゾチックで生めかしい美女だった。ホテルの浅瀬のプールで、子供たちの水遊びに付き添う母親のなかに黒ずくめの人を見つけ不自由そうに思えたが、人前で肌を出

すことに慣れていない当人はさしてそうは感じていないのだろう。

南国の恩恵のひとつに果物の種類の多様さと美味があげられる。果物の王様ドリアンはその強烈なおい故、ホテル内の持込が禁止されている。現地工場の社長夫妻がタッパーに詰めたドリアンをこっそり差し入れしてくれた。皆引いてしまって口にしないので、私が戴いてみたがジューシーなクリームチーズといった感じで結構イケているように思えた。ただ、土産に買ったドリアンチョコとドリアンクッキーはクセが強く不評であった。

市内の繁華街には沢山の屋台が出店している。超高層ツインタワーができ、マグカップ、Tシャツ、バッグなどありとあらゆるものにタワーがプリントされたみやげ物が売られている。ビーズのアクセサリー屋、布屋、袋物屋、時計屋、挙げればキリがないが、屋台の多くは食べ物屋である。車がひっきりなしにもうもうと埃をあげて通る道路の端で、焼きそばやお好み焼きのようなものを作っている。車窓から入るにおいは魅力的なのだが、衛生状態を思うと手が出せない観光客が多いようだ。

私たちは19世紀のたたずまいを残す「ジョージタウン」へと繰り出した。英国統治下の時代を感じさせる教会や、現在は駅や博物館になっているクラシックな建物と、当時のミステリアスなチャイナタウンが融合してできた町並みはシックで懐かしく妙に落ち着く。店が老朽化して土壁がくずれても、建物を補強して100年以上の歴史を誇っている。

市街地にはタイ、ビルマの寺院があり、金ピカのお釈迦様が極彩色の調度品に囲まれていらして、なんだか天井の世界は

とても賑やかで楽しそう。日本語のリーフレットも置かれているし、お賽銭箱の代わりに寄付金箱が備えてあった。

モスク(見学は限られた寺院のみ、女性はスカーフと肌を隠す服を着用)、インドのお寺、山頂に建つ巨大な観音様(ケーブルで上る)などは見学できなかったが、どこも日本の清水寺のように観光地として賑わっていた。



ペナンで一番賑わうモールでアイスクリームを食べさせてもらっていたら、イスラムの40代後半の女性から話しかけられた。電動車いすを見るのは初めてだったので、私のような身で外出し旅行ができることに大変驚いているようだった。道理で車いすを走らせるとみんなが物珍しげに見るはずだ。女性は教師だそうで、日本にホームヘルパー派遣制度がある話に強い関心を示していた。

4日目くらいから足の腫れがめだってきて家族が病院へ行くことをしきりに勧めたが、帰国してからという思いが強くシップ剤を張ってしのいでいた。5日目、足は青紫色になった。翌日の帰国日には足の腫れは不安を抱かせるに十分な状態であったが、飛行機に乗れば日本だし成田のクリニックに飛び込めば何とかなるだろうと機上の人になった。

成田で連れの人たちと笑顔で別れ、クリニックに飛び込みレントゲン撮影。膝頭の真上で大腿骨が見事パキッと折れているではないか。破傷風ワクチンを注射されそのまま都立大塚病院に直行。些細な不注意で取り返しのつかない結果を招いたことを後悔し、交通事故後、恵まれた環境でさして不自由さも覚えずノホホンと暮らしていた状況を懐かしんでみる。腰椎麻酔で手術を受けたので、建築現場のような豪快な医師の手腕振りがあとあとまでの語り種になっている。大腿骨内にチタン棒が、膝と膝下にもチタンが埋め込まれボルトで固定されたが、すでに骨粗しょう症である骨はもろく、外科医の経験による納得できる留まり方がされていないと説明された。

入院中の2ヶ月は絶対安静、ご存知のように完全看護は表向きなので、多忙な看護師さんの顔色を見ながら、髪や手を洗って欲しいとお願いした。(手洗いは意外と忘れられている)
認知運動療法という新たな手法を取り入れたリハビリを枕元でやっていただいた。身体が発するけい性以外のシグナルを感じとるのは、頭で思うほど容易なものではなくひどく疲れるものだった。

矢澤さんは週一位の頻度でジッピーを連れ見舞いに来てくださった。看護師さんの目を盗みベッド周りのカーテンを引きジッピーをベッドに寄せ、「ゴメンね・ゴメンね」と涙ながらに抱きしめていた。ただ、当の本人は親友のワカちゃんと遊び放題の薔薇色の毎日で、私の気持ちとはかけ離れたところにいたようだ。

退院を目指して枕元で担当者会議を開いていただいた。病院の看護師・PT、区

の障害福祉担当者・訪問看護師・利用事業所のサービス提供責任者の立会いの下、在宅復帰に向けリハビリ、トランスファー、体交、入浴時の留意点などが話し合われ、もう少しの期間入院を勧める医師を振りきり退院を決めてしまった。

玄関をくぐり全ての窓を開け放ち青々した植木が風にそよぐのを見、またジッピーとの生活が再開できる、これ以上の回復の場が他にあるものか、と喜びで胸が一杯であった。

皆さんにも見舞いに来ていただき今でも現地の病院にいかなくて正解だったと心から思っている。

付録

身体障害者補助犬法が改正されます。

2007年11月可決 2008年4月施行

改正ポイント

○ 補助犬のトラブルに関する相談窓口の設置

都道府県は窓口を設け、義務化されているにも拘らず補助犬の同伴を拒否する施設への説明や調整を図る一方、受け入れ施設側の苦情にも対応し、補助犬に関するトラブルに対処し、都道府県知事は必要な助言、指導などを行うほか関係行政機関の紹介を行う。

○ 民間の職場での受け入れの義務化 従業員56名以上の職場(法定雇用障害者数適用事業者)に関しては補助犬の受け入れが義務化された。

補助犬の社会的な役割を多くの人に知ってもらうとともに、障害者の社会的自立をめざして補助犬使用者は今後も声をあげてまいります。

俺たちの旅 大分県別府忘年慰労旅行 ～情熱と感動の1泊2日・夢を語るバカになれ！～

兵庫頸損連絡会 宮野 秀樹

昨年12月に大分県別府市へ気の合う仲間？と旅をしてきました。あまりにも面白い旅行でしたので報告させていただきます。

○旅の趣旨

本来この旅行を企画する段階では、昨年一年間を頸損会活動に奔走した仲間と労をねぎらうために、日頃の活動を忘れ、ただ美味しい料理と酒を楽しむことを目的として、兵庫県内もしくは近隣を目的地とした旅行を計画したものだったのですが、なぜか最終的には目的地が「大分県別府市」であったというタコヤキボーイズ的な行き当たりばったり感が…。といっても、今回は旅行の準備を進めていた段階で、某セミナーで一緒になった大阪頸損連絡会会員でもある大分県在住の末永茂樹さんより「忘年会旅行は大分に来ませんか？」とのお誘いを受け、せっかくの機会だからとお誘いに乗ったという経緯があったワケです。

別府での移動・宿泊・お店の手配と何から何まで末永氏のご厚意に甘えたことで、こちらが準備するのはメンバー募集と新幹線の手配だけというタコヤキらしくないお気楽旅行に。でも、どうせ行くなら大勢のほうが楽しいと、活動をともにした人工呼吸器使用者や行事等をお手伝いいただいた学生ボランティアたちに声をかけたところ、急な呼びかけでもあったせいか不参加の返事が多く、結局最終的にはいつものツルピカ・タコヤキボーイズ（三戸呂・鳥屋・宮野）と「みんな行くから一緒に行きましょう！」と半ば騙された形での参加となった人工呼吸器使用者・米田さん、それと神戸学院大学の熱き学生ボランティアというゴリゴリの男子ばかりのメンバーとなりました(笑)それでもみなさんお気づきだと思いますが、お気楽遊び旅行であるにもかかわらず、人工呼吸器使用者や学生ボランティアで構成された愛と勇気のメンバーというのが、いかにもタコヤキらしいと言えるそうだと思いますか？

○旅立ち

JR姫路駅では印象的なシーンが。今回、遠方への旅行も家族以外の介助を受けての旅行も初めてという米田さん。心配で姫路駅まで見送りに来られたお母さん。「よろしくお願いします」を連発されるお母さん。「もうわかったから…」と苦笑いの米田さん。「任せておいてください」と適当な宮野さん。そりゃ心配ですよ、初めて学生ボランティアのサポートを受けての旅行ですしね。でも大丈夫ですよ、お母さん。この学生さんたちはやってくれます。熱いやつらです。介助の練習もしてくれたじゃないですか。きっと無事に帰って来ますよ！姿が見えなくなるまで見送るお母さん。



心配しないでくださいね、お母さんー母心配の図ー

誰もが必ず通る道。学生さんたちの顔が引き締まる。大いなる決意の表れか。不安を拭うかのようには話す米田さん。ゴリゴリの男子ばかりで嬉しそうな鳥屋さん。マイペースで静かに眠る三戸呂さん。売り子のお姉さんに声をかけまくる宮野さん。俺たちはフリーダム！情熱と感動の1泊2日を大いに楽しもうじゃないか！…しかし、車いすが4台も乗ると狭いですね、レールスターは…

○出会い

JR小倉駅で特急ソニックに乗り換えていざ別府へ。車窓から見える景色も海が多くなってきた。特急ソニックの中は本来2台の車いすスペースし

がなく、2 台は席に移乗しなければいけないのですが、無視してデッキも含めて無理矢理 4 台乗ったのでほぼ身動きが取れない状態に。長時間の乗車と動けない圧迫感でさすがにみんなお疲れモード。それでもマイペースで静かに眠る三戸呂さん。約 4 時間の移動を終えてやっと J R 別府駅に到着。



新幹線の車内ーゴリゴリの男子ばかりの図ー

J R 別府駅に降り立つと末永さんと熊本県の頸損者・深川さんとが出迎えてくださった。挨拶もそこそこに用意してくださったリフトタクシーに乗り込んで今回の宿泊先である「亀の井ホテル」

(<http://www.kamenoi.com/beppu/>) へ。亀の井ホテルは末永さんが紹介して下さったホテルで、6 人部屋と 4 人部屋を予約。6 人部屋だと 1 人 4,000 円というかなりリーズナブルなホテルです。J R 別府駅から自走でも 10 分くらいで、部屋も広く大型電動車いすでも十分動き回れる良いホテルでした。急いでチェックインだけをすませ、再びリフトタクシーに乗り込み“お楽しみの夜の宴”が開かれるユニバーサルスペース夢喰夢叶(MUKUMUKU)

(<http://www.jp999.com/999/>) へ移動。夢喰夢叶は CIL おおいた（代表：米倉仁さん）が運営しているカラオケや飲み会ができるフリースペースで電動車いすが 6,7 台入っても十分動けるんじゃないかなと思えるくらいゆったりとした、身障者トイレも完備の素敵なお店でした。

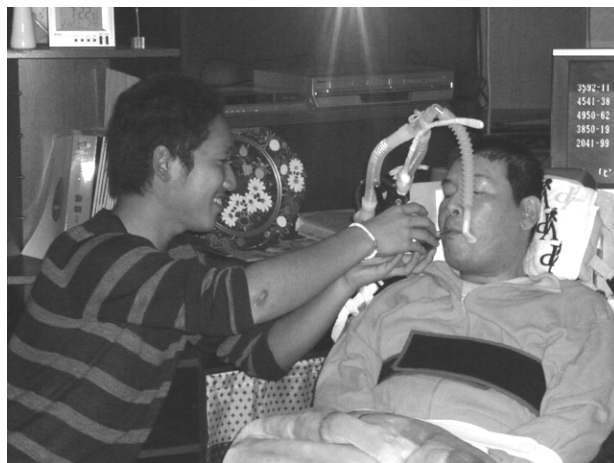
夢喰夢叶では米倉仁さんが我々を迎えてくださり、末永さん、深川さん、CIL おおいたスタッフの頸損者・若杉竜也さんも加わって、九州頸損者と関西メンバーとの交流会へ突入しました。テーブルの上にはとり天（鶏肉のてんぷら）や馬刺な

どの大分名物とオードブルがところ狭しと並び、牡蠣や海老や魚がふんだんに入った海鮮鍋、関サバ・関アジなどの新鮮な刺身と豪華極まりない。



凄すぎる刺身盛りー関サバ・関アジー

そこにビール・焼酎ときたら盛り上がらないワケがない。自己紹介が終わるともう既に旧知の仲間のよう酒を酌み交わしながら頸損談義に花が咲いていました。米田さんもビールを“吸い飲み”で飲むという荒技を披露し宴に興じていました。

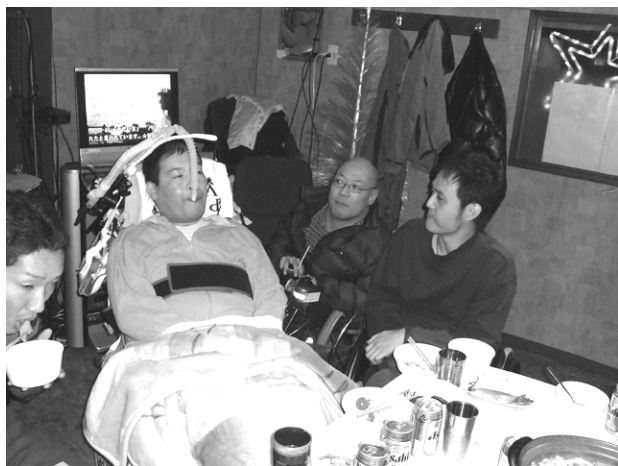


至極の荒技ー吸い飲みビールー



宴に興じるタコヤキ御一行ー宮野酔っぱらうの図ー

鳥屋さんに関してはご想像通り、飲むのかしゃべるのかどっちかにしろ！というくらい全員に絡んでました。三戸呂さんとはいうと、さすが重鎮、マイペースで静かにエロい話をしながら飲んでおられました。宮野はというと…これを書いていて困ったことは、あまりに楽しすぎて何を話したかよく憶えていないことです(笑) 米倉さんから別府の頸損者の活動や別府という街の魅力について聞いたり、全国頸損連絡会の活動状況をお話したりしたのですが、終始笑いが絶えなかったことくらいしか憶えていません。



熱く語る男たちー鳥屋の乱ー

それでも驚いたというか感服したのが大分の頸損者の懐の深くて広いことです。計画段階からいろいろと尽力いただいた末永さんで感じたことですが、米倉さんを始め健常者スタッフもみなさんの“おもてなし”の姿勢は今まで感じたことがないくらい手厚いものでした。自らが率先して楽しむ。障害者・健常者関係なく楽しむ。開けっぴろげで親しみやすい人たちばかりで気持ちが良かったです。遊びだと言いながらキッチリ交流会を開いてしまう。そしてまた新たな頸損者と知り合いパワーを得る。だから止められないんですよね、タコヤキ的夜の宴は。ということで、あっという間に一次会は終了に。ここからはお楽しみのムフフな大人の時間だ(笑)

○成長

どう書けば良いものか。一応、公序良俗に反する表現は避けるため、わかりにくい文章になりますがお許しください。サブタイトルも思わせぶり

なものにしておきます。

二次会。いや～みんなカラオケが好きですね。お姉さんも好きですね。三戸呂さんの「時代おくれ」、米田さんの「北の国から」、良かったなあ。車いすがあれだけたくさん入れる大人の社交場はなかなか無いです。お店のほうも“障害者へのサービス”といった気負いありません。あくまでも客に楽しむ場を提供する、といった感じ。自然な感じがとっても良かった。大分の障害当事者が関係を築いておられるんでしょうね。それがよく伝わってきました。それにしてもリョーコちゃん、あなたのおかげで使える写真が少なくなったじゃないですか。そこまでしなくても…。まあ、リョーコちゃんのおかげで鳥屋さんや米田さんと兄弟になれたんだからヨシとするか(笑)



負けてたまるか！関西魂！ーカラオケ熱唱ー

三次会。もう焼酎は飲めないよ、と言いつつまだ飲んでいる。あれっ？米田さんと鳥屋さんがいない。こんなに煌びやかなお姉さんたちがいるのに…。三戸呂さん、まだ歌うんですか！あっ、お姉さんそんなに顔を近づけないで、照れるじゃないですか！それにしても大分頸損者はタフです。どれだけ飲んで歌えるんですか！もうギブアップ、帰ります。三戸呂さん、そっちの道じゃないですよ！そっちは“もっと大人のお店”ですよ！

四次会。やっとホテルに到着。もうみんな寝てるんでしょうね。三戸呂さん、そっちは女風呂ですよ！捕まりますよ！部屋に入るととんでもない光景が…なんでウォッカが空いてるねん！わざわざ買ってきたのね…。米田さん、疲れてないんですか？あれっ？目が虚ろじゃないですか！鳥屋さ

なんだか不思議な光景です。深夜だというのに人工呼吸器使用者や重度障害者が酒を飲んで語り合う。世代も関係なく笑いあっている。別府に来て良かった。思い切ってチャレンジして本当に良かった。ボランティアのみんなもありがとう。こうやって経験することによって僕らは前に進むんです。何かに挑戦してクリアすることでみんなに勇気を与えるんです。いつもいつまでもこの光景が当たり前を感じられる世の中を作っていきたいですね。みんなで成長していきたいですね。さあ、寝ましょう！まずは鳥屋さんを部屋から追い出して安心した中で眠る準備をしましょう(笑)



○帰還

2 日目はせっかく大分に来たのだからと CIL おおいたの事務所とバリアフリーマンションを見学させてもらうことに。事務所は多くの障害者が働くに相応しい動きやすく広いところでした。トイレも各種障害に応じた構造のものが3箇所設置してあり正に完璧という状態。バリアフリーマンションも障害者が使いやすいことを追求した理想の間取りと設備でした。大分の障害者が長い期間をかけ努力で築き上げた感が強く伝わってきました。CIL おおいたを見学した後は JR 別府駅に移動して、日本初の女性バスガイドによる案内つきの定期観

それにしても別府という街はスゴイです。とにかく別府は楽しかったの一言に尽きます。街も人も優しい！夜の繁華街や大人のお店の前で障害者に「遊んでいてください」「雨が降っているけど大丈夫？」と多くの人が声をかける場面に出会うことってそんなにありませんよね。米倉さん曰く「社会福祉法人・太陽の家や国立別府重度障害者センターがあり、昔から障害者が街に出ているので、障害者が珍しくないという土地柄だからかな」とのこと。そういう土地柄って素晴らしい。本当にそう思います。そして、はしゃぎすぎの関西メンバーのさらに上をいく九州頸損者のパワーには圧倒されました。純粋に“生きることを楽しむ”ことの大切さを再度認識しました。この元気がうまく溶け込んで別府の街が人の優しさを形成しているのだと思います。大きな大きな収穫でした。

そして最後に。帰りの IR 小倉駅での乗り換え待

ち時に米田さんが言った「今回の旅行で自信が
きました。経験を積みばいろんなことをしたくな
りますね。」この言葉が聞きたかったワケではあり

ませんが、この言葉はなにものにも代えがたいも
のです。誰もが言える言葉にしたい。今年1年の
タコヤキボーイズも忙しくなりそうです。

大阪頸髄損傷者連絡会主催

「街に出よう」

大阪頸損連絡会 事務局長・鳥屋利治

大阪頸損の定番行事です。

外出慣れしてない方たちやそうでない方たちが一
緒になって、

公共交通機関を使って街に繰り出そうという企画
です。

小雨がぱらつく朝ですが、大阪・兵庫のみんな元
気に出かけてきました。

車いすで公共交通機関を使い、バリアフリー調
査・点検をしながら楽しく街にくりだしました。

＜主なコース＞

＊今回は新しくできたバリアフリーな地下鉄今里
筋線を体験できるようにしました。

・「神戸南京町で中華を堪能し潮風に吹かれながら
ハーバーランドを散策」コース

・「新世界でソウルフードを味わい、ゆっくり芸術
鑑賞（日展）」コース

・「大阪たこ焼きミュージアムで、腹一杯にたこ焼
きを堪能」コース

日時：3月20日（木・祝）10：00集合！

場所：城北市民学習センター1階ロビー

大阪市立城北市民学習センター

〒535-0031 大阪市旭区高殿 6-14-6

TEL 06(6951)1324 FAX 06(6951)1304

■地下鉄谷町線「関目高殿」駅 下車4号出口
徒歩3分

■地下鉄今里筋線「関目成育」駅 下車2号出口
徒歩6分

■京阪電車「関目」駅 下車 徒歩6分

■大阪市バス「高殿」「高殿7丁目」 下車すぐ

08 春 代表者会議概要報告

事務局長 八幡 孝雄

日 時：3月16日（日） 13時～17時

会 場：なごや福祉用具プラザ 会議室

（於 名古屋市）

参加者：

（本部・兵庫）三戸 呂 （本部・大阪）坂上

（本部・東京）菊地 八幡

（東京）鴨治 石毛 （神奈川）星野

（静岡）井出 （愛知）近藤 鬼頭 三好

（岐阜）松本 篠田 （京都）古屋

（大阪）赤尾 鳥屋 （兵庫）宮野

（ボラ：記録）平子

春の代表者会議を上記の日程で開催し、代表者17名が参加、活動内容の検証、確認、今後の活動について話し合った。

はじめに、5月10日～11日に大阪で開催される「全国総会・大阪大会」について話し合った。大阪支部より準備進捗状況が報告され、大会参加者が有意義な時間を過ごすことができるように、企画内容、スタッフ体制などの再確認を行った。「重度障害者の自立と支援について」を大会テーマに掲げ、「人工呼吸器使用者の可能性」を検証して課題整理、「地方で自立して暮らす高位頸損者の自立実現報告」を通して、より重度の頸損者があたりまえに社会参加できる環境について、共に考え、解決に協力していくことを確認した。

次の議題は活動の停滞した支部をどうするか、頸損ネットワークの構築をどのように行っていくか議論した。現在、実質活動停止状態の北海道支部の扱いをどうするか話し合い、一旦支部閉鎖することとなった。ただし、北海道会員の連絡窓口、連絡網は確保する方向で調整している。確定したら改めて報告させて頂きたい。さらに全国の頸損者のネットワーク化を図り、頸損者であるが為に悩んでいる人をなくしたい、情報過疎地域を



なくしたいと考えているところだが、地道にネットワークを築いていくこととなった。

3つ目の大きな議題は、全国頸損会員の生活実態調査を研究者と連携して行う案があり、具体化に向けた話し合いをした。内容的には、頸損者の抱える問題を浮き彫りにできる、基礎データ収集、分析を行い、行政交渉の裏付けデータとして使用したり、報告書としてまとめられるものとしたいと考えている。

その他の案件も含め、代表者会議では「障害者一人一人が大切にされ、自分らしく生きられる社会を作るために、私たちはどのような暮らしを望んでいるのか」各代表者が共通認識を持ち、各方面にどのような形でアプローチすべきか話合っている。



松井先生退官のお知らせ

東京頸損連絡会 麯澤 孝

2008年3月31日、松井和子先生が国立看護大学校を退官されました。

松井先生には私自身、全国頸髄損傷者連絡会、共に本当にお世話になりました。先生はこれから関西の大学のお手伝いをするそうですが、お身体を大切に今後も全国の頸髄損傷者を温かく見守っていただきたいと思います。

※松井先生は我々の会にとっての貴重なアドバイザーであると共に、人工呼吸器使用の高位頸損者への先進的な研究、取り組みを続けてこられているかたです。

(編集部)



厚生労働省と交渉を行う

2008年2月25日(月)15時より、厚生労働省との交渉及び厚労省前での支援集会・ビラ配りなどを行いました。

「障害者自立支援法」は昨年12月、与党障害者支援法に関するプロジェクトチームによる「障害者自立支援法」の抜本的見直しの方向性が出されましたが、私たちが注目していた「報酬単価」の見直しは2009年に先送りされました。また、これまでの交渉でも要望していた「障害者」の範囲については引き続き検討という不十分なもの、まだまだ多くの課題が残っています。

当日は「障害程度区分」や「報酬単価」見直しの問題など重要な交渉となりました。当会会員も交渉・支援に多数参加しました。

<呼びかけ団体>

DPI 日本会議・全国自立生活センター協議会・全国障害者介護保障協議会・全国公的介護保障要求者組合・ピープルファーストジャパン・全国ピアサポートネットワーク
「障害者の地域生活確立の実現を求める全国大行動」実行委員会

電動車いすに基準 経産省、安全策の義務化検討

Asahi.com 2008/2/27 日付

電動車いすで高齢者や身体障害者が死亡するといった重大事故が相次いでいるため、経済産業省は電動車いすの安全基準づくりに乗り出す。関係省庁との協議を踏まえ、安全確保装置の搭載などを義務づける方向で検討を始める。

議論の場として経産省所管の独立行政法人・製品評価技術基盤機構（NITE）が 29 日に研究会を設立。ここに経産省、国土交通省、厚生労働省、警察庁のほか、介護団体や国民生活センターなどが加わる。3 月末までに提言をまとめる。

研究会ではまず、電動車いすの商品テストや過去に起きた事故を検証し、安全基準の義務づけが必要かを検討する。基準が必要と判断した場合には、重大事故の報告をメーカーに義務づけた改正

消費生活用製品安全法（消安法）の特定製品に指定することも視野に入れる。指定されると、国が定めた検査を受けないと販売できなくなる。

電動車いすの運転は歩行者と同じ扱いのため、免許がいらない。道路交通法では、車いすの車体の大きさや上限速度などの規定があり、それらを守れば認定マークを付けられる。ただ、任意のためマークがなくても販売でき、法的強制力のある安全基準はなかった。

電動車いすの事故は、メーカーなどに重大事故の報告を義務づけた消安法が施行された昨年 5 月以降、転倒や踏切事故など 8 件が報告されている。うち死亡が 5 件と重大事故につながる確率も高く、対策を迫られた。

補そう具基準表・改正予定

電動車いすに

「電動ティルト」「電動リクライニング・ティルト」が加わる

電動ティルト式普通型（電気で座席と背もたれが一定の角度を維持した状態で角度を変えることができるもの）

580,000 円

電動リクライニング・ティルト式普通型（電気で背もたれの角度を変えることができ、座席と背もたれが一定の角度を維持した状態で角度を変えることができるもの）

982,000 円

全国頸髄損傷者連絡会連絡先

全国頸髄損傷者連絡会・本部

〒162-0051 東京都新宿区西早稲田 2-2-8 全国心身障害児福祉財団ビル 5F

TEL&FAX 03-3208-1655 e-mail: keisonren@ne.nu

<http://www.saka-ue.cside.com/j/naq/>

[郵便振替] 口座番号: 00110-0-62671 口座名義: 菊地方 頸損連絡会

※ 各支部、地区窓口の住所は本部にお問い合わせ下さい。

北海道地区窓口

TEL&FAX 011-387-7190

※ 「北海道頸髄損傷者連絡会」は支部活動を停止し、体制変更しました。

栃木頸髄損傷者連絡会

TEL&FAX 028-623-0825 e-mail: keison@plum.plala.or.jp

<http://www16.plala.or.jp/tochigi-keison/>

東京頸髄損傷者連絡会

TEL&FAX 03-3766-6084 e-mail: keison5@khe.biglobe.ne.jp

<http://www.normanet.ne.jp/~tkyksn/index.html>

神奈川頸髄損傷者連絡会

TEL&FAX 042-777-5736 e-mail: h-futosi@wa2.so-net.ne.jp

<http://www.k-sonet.jp/>

静岡頸髄損傷者連絡会

TEL&FAX 054-273-9099 e-mail: GZL06477@nifty.com

愛知頸髄損傷者連絡会

TEL 052-841-6677 FAX 052-841-6622 e-mail: kito@aju-cil.com

頸髄損傷者連絡会・岐阜

TEL&FAX 0584-77-0533 e-mail: kson_g@yahoo.co.jp

<http://www.normanet.ne.jp/~yume/>

京都頸髄損傷者連絡会

TEL 075-645-5818 e-mail: keison@ev.moo.jp

<http://keison.moo.jp/>

※ 京都支部の連絡先が変わりました、住所はお問い合わせください。

大阪頸髄損傷者連絡会

TEL&FAX 06-6355-0114 e-mail: okeison@yahoo.co.jp

<http://rsakurai.hp.infoseek.co.jp/oaq/>

兵庫頸髄損傷者連絡会

TEL&FAX 078-934-6450 e-mail: hkeison@yahoo.co.jp

<http://hkeison.hp.infoseek.co.jp/>

愛媛頸髄損傷者連絡会

TEL 089-960-7730 FAX 089-960-7731 e-mail: skazu9@peach.ocn.ne.jp

<http://www4.ocn.ne.jp/~keison/index/index.htm>

みなさん、読書はお好きですか。私の理想はいつか晴釣雨読の日々を送ること。

子供の頃本は大嫌いだった。何が楽しくて家の中でじっとしてこんなものを読まなければならぬのか理

解できなかつた。親が買い与えた

子供文学全集は一冊も読まないまま捨てられることになった。本を読むようになったのは高校生からだ。私の通った高校に熱い国語の教師がいて生徒たちは1年に25冊(たぶん)読むよう強制させられた。結果としてそれがよかった。小説の楽しさを知ることができた。まだ若かったから、純真な心が残っていたから(?), 伊藤左千夫の「野菊の墓」に涙して、島崎藤村の「破戒」に社会の差別を怒り、司馬遼太郎の描く英雄たちに心踊らせた。

今、私が好きな作家のひとりが、藤沢周平だ。

藤沢周平さんに出会ったのはもう10年ほど前になる。藤沢周平さんが亡くなり書店でのフェアで何気なく手にとった「蟬しぐれ」に感動した。清々しい青春物語だった。その後、藤沢周平さんが20

代半ばで結核になり夢破れた半生や清瀬、東久留米といった西

武池袋線沿線に住んでいたことなどを知り、自分の半生と共通するところを見つけ(無理矢理と言えなくもないが)、ますます好きになっていった。

頸髄損傷者になり、好きだったスキー、アメリカンバイクはできなくなり、読書が趣味のひとつとなった。幸いパートとはいえ仕事に就いているのでなかなか自分の時間がとれないことが悩みだが、時間を見つけて、たっぷりのお茶とおまんじゅうを並べて好きな作家の小説を楽しみたい。(横)

編集者リレーエッセイ 第1回

みなさん、読書はお好きですか。

編集後記

花が咲き、若葉が目にしみる季節となりました。多くの頸損者にとっては貴重な活動時期ではないでしょうか。まもなく(5月10・11日)「全国頸損総会」が、当会としてはもっともエネルギーあふれる活動を展開している関西・大阪で開催されます。人工呼吸器使用の高位頸損者も多数参加予定と聞いています。どのような重度障害者でも地域で当たり前で暮らしていける(ノーマライゼーション)社会は関西から! 地方で情報不足になりがちな方にとっては、まさに異文化体験かもしれませんよ。

T. K.

編集部よりお知らせ

- 掲載記事の「全国頸髄損傷者連絡会連絡先」の中で、“北海道&京都”に変更がありますので連絡、郵送の際はご確認ください。
- 編集部員(協力者)募集
全国機関誌『頸損』編集部では、協力していただける方を随時募集しています。ぜひご連絡ください。
- 編集部連絡先
住所 〒189-0023 東京都東村山市美住町1-4-15-1105
TEL: 042-396-7816 E-MAIL: tosiaki@tokyo.email.ne.jp
- 郵便振替(振込) 00110-0-62671 頸損連絡会

二〇〇八年四月十六日発行
SSKA 頸損通巻第六二〇五号(毎月六回一・六の日発行)
昭和四十六年八月七日第三種郵便物認可

発行人
編集人

障害者団体定期刊行物協会
東京都世田谷区砧六―二六―二二
全国頸髄損傷者連絡会
東京都新宿区西早稲田二―一八―五F

SSKA 頸損 No.94

2008年4月16日発行

SSKA 頸 損

編 集 全国頸髄損傷者連絡会
編 集 責 任 者 三 戸 呂 克 美
全国頸髄損傷者 東京都新宿区西早稲田2-2-8
連 絡 会 本 部 全国心身障害児福祉財団ビル5階
TEL/FAX (03) 3208-1655

頒価二五〇円